



平成 23 年 7 月 27 日 17 時 00 分改

福島第一原子力発電所の事故に関するコメント（食と住居について）

一般社団法人 日本原子力学会

（速報を旨として、現時点で得られた限定的な情報から分析しております。今後、事実関係の訂正や新たな情報が得られた段階で、経緯や解釈の修正が必要になる場合がありますので、ご了承下さい。）

今回の福島原子力発電所の事故では、原子炉や使用済燃料プールから放射性物質が放出され周辺環境に広がってしまいました。これに伴い、放射性物質の濃度が国の暫定規制値を超える食品が見付かったことが報道されています

食品中の放射性物質濃度測定は色々な食品について継続して実施されており、放射性物質濃度が規制値を超えた食品は市場に出回らない措置がとられています。しかし、最近、規制値を上回る放射性物質濃度の牛肉が流通していることが明らかとなり、その原因が餌の汚染にあったことが明らかになりました。この問題の原因の究明は急がれるべきではありますが、国の食品に対する規制値は、全ての飲食物について、規制値の濃度のものを 1 年間食べ続けても健康影響が出る心配のない量に設定されています。このため、ある一部の食品についてたまたま規制値を超えるものを口にしても、極端に高い濃度の食品を継続的に摂取しない限り、影響がでるような恐れはありません。当然のことながら、規制値以下の食品を食べても何の問題もありません。

事故の初期の段階では、原子力発電所から放出された放射性物質が空気中にあったことや、地表に落ちた放射性物質は、落ちた直後は比較的舞い上がりやすいこともあって、空気中の放射性物質をできるだけ吸い込まないようにすることが、被ばく線量を下げることが有効でした。現在は、原子力発電所からの放射性物質の放出は非常に少なくなっており、また、事故発生直後に放出された放射性物質のほとんどは地表面などに付着していて、空気中には舞い上がりにくくなっています。このため、現在では、呼吸によって放射性物質を体内に取り込むことについては、ほとんど心配する必要はありません。砂埃がもうもうと舞っているような状態でなければ窓を開けても問題ありませんし、洗濯物などを外に干すことも問題ありません。長袖の着用も不要です。

なお、現在避難区域や計画的避難区域に設定されている地域は、原子力発電所の状態が安定して放射性物質の放出が止まり、新たな放出の可能性も無くなるとともに、生活環境の線量率や放射性物質の濃度を測定して、必要に応じて洗浄などにより汚染が取り除かれ、その場所で生活しても問題がないレベルになれば元の住居に戻って暮らすことが可能となります。



AESJ 日本原子力学会
Atomic Energy Society of Japan

以上

* 食安発0317第3号

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001558e-img/2r9852000001559v.pdf>

原子力安全委員会により示された指標値